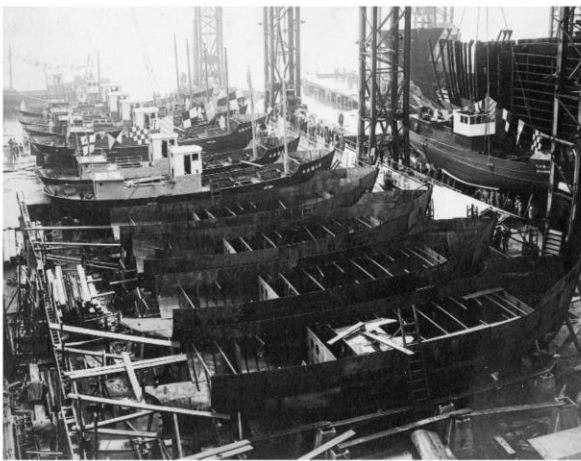


造船所の復興に向けて

三菱重工業(株)長崎造船所は、戦前の最大顧客であった軍の解体により、艦の販売先を失い、深刻な需要不足に陥りました。

約2万人を解雇せざるを得ず、残った従業員は、家庭用の鍋や釜、機関車の補修のほか、漁船や捕鯨船、小型貨客船などを建造しながら再起を図りました。

その後、1947(昭和22)年に、政府が船舶建造資金を融資する「計画造船」の施策を打ち出し、造船業は徐々に回復していきました。

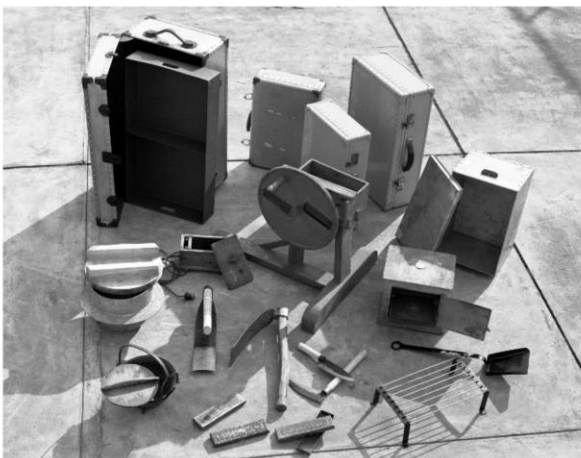


漁船の大量建造

撮影時期 不詳

撮影 不詳

所蔵 三菱重工業(株)長崎造船所



戦後から1946(昭和21)年末にかけて 製作された家庭用品や農機具

撮影時期 不詳

撮影 不詳

所蔵 三菱重工業(株)長崎造船所



造船祭当日の立神棧橋

1946(昭和21)年4月23日、従業員たちの生産意欲を高めるため、造船祭りが開催されました。軍事極秘地区であった構内が市民に公開されたほか、各工場ごとの展示会や製品即売会、龍踊りなどが行われ、好評を博しました。

撮影時期 1946(昭和21)年4月23日

撮影 不詳

所蔵 三菱重工業(株)長崎造船所